

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
425	117.83	117.83	50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる(緑泥石化作用)。割れ目の周囲には輝沸石が生じている。	117.83	117.83	50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる(緑泥石化作用)。割れ目の周囲には絹雲母が生じている。	117.83	117.83	117.83m: 50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、緑泥石化により、やや緑色を帯びる。割れ目の周囲には絹雲母が晶出する。	-
426	119.00	120.00	(RQD欄)32	119.00	120.00	(RQD欄)30	119.00	120.00	(RQD欄)30	-
427	119.65	119.83	割れ目がやや卓越する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂～シルト状の挟在物が見られる。	119.65	119.83	割れ目がやや発達する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂～シルト状の挟在物が見られる。	119.65	119.83	119.65～119.83m: 割れ目がやや発達する。割れ目面にはマンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部は砂～シルト状の挟在物が見られる。	-
428	119.65	120.10	(コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)CL	119.65	120.10	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)GM	119.65	120.10	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)GM	-
429	-	120.10	～120.10m: 割れ目に沿って変質が見られ、幅2～4mm軟質となる。	120.05	120.05	傾斜40°で幅2～4mmの灰白色粘土を挟む。	120.05	120.05	120.05m, 120.07m: 傾斜40°で幅2～4mmの灰白色粘土を挟む。	記事内容が同じであるため、120.07mの深度も含めて記載した
430	-	-	-	120.07	120.07	傾斜40°で幅2～4mmの灰白色粘土を挟む。	-	-	-	上記にまとめ書きしたため記載しない
431	120.31	120.31	付近、65°の平行な割れ目が集中。砂～礫状の挟在物が見られる。	120.31	120.31	付近、35°の平行な割れ目が集中。砂～礫状の挟在物が見られる。マンガンを挟む。	120.31	120.31	120.31m付近、35°の平行な割れ目が密集し、マンガンを挟む。	-
432	120.40	120.40	58°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質脈と厚さ2mmの水酸化鉄を伴う。	120.40	120.40	40°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質脈と厚さ2mmで褐色が顕著に見られる。	120.40	120.40	120.40m: 40°の比較的シャープな割れ目に緑灰色の変質脈と幅2mmの褐色化が顕著に見られる。	-
433	120.40	122.54	堅硬な柱～長柱状のコア。褐色汚染が見られる割れ目が多い。	-	-	-	120.40	122.54	120.40～122.54m: 堅硬な柱～長柱状コアからなる。褐色汚染が見られる割れ目が多い。	-
434	120.67	120.69	(コアの形状欄)Ⅲランク	120.67	120.69	(コアの形状欄)Ⅱランク	120.67	120.69	(コアの形状欄)Ⅱランク	-
435	121.16	121.32	(コアの形状欄)Ⅱランク	121.16	121.32	(コアの形状欄)Ⅲランク	121.16	121.32	(コアの形状欄)Ⅲランク	-
436	121.60	121.60	割れ目沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の挟在物が見られる。	121.60	121.60	傾斜50°の割れ目沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の挟在物が見られる。	121.60	121.60	121.60m: 傾斜50°の割れ目沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の挟在物が見られる。	-
437	121.60	121.74	(岩級区分欄)CM	121.60	121.74	(岩級区分欄)CH	121.60	121.74	(岩級区分欄)CHに含める	-
438	122.46	122.46	割れ目の周囲が変質により緑色味を及ぼす。輝沸石が散在し光る。褐色汚染顕著。	122.46	122.46	傾斜50°の割れ目の周囲が変質により緑色味を帯びる。絹雲母が散在し光る。褐色汚染顕著。	122.46	122.46	122.46m: 傾斜50°の割れ目の周囲が変質により緑色を帯びる。絹雲母が散在し、褐色汚染も顕著である。	-
439	122.54	122.78	(岩級区分欄)CL	122.54	122.78	(岩級区分欄)CM	122.54	122.78	(岩級区分欄)CMに含める	-
440	122.54	123.84	顕在化した割れ目の他、微細な割れ目が多い。	-	-	-	122.54	123.84	122.54～123.84m: 顕在化した割れ目の他、微細な割れ目が多い。	-
441	122.78	123.00	(割れ目状態欄)cランク	122.78	123.00	(割れ目状態欄)bランク	122.78	123.00	(割れ目状態欄)bランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名:H27-B-4

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それらの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
442	123.00	123.26	高角度の割れ目には厚さ1~6mmの二酸化マンガ ンが挟まる。割れ目が集水し脆弱である。	123.00	123.26	高角度の割れ目には厚さ1~6mmの二酸化マンガ ンが挟まる。割れ目が集中し脆弱である。	123.00	123.26	123.00~123.26m:高角度の割れ目に幅1~6mmのマンガ ンを挟む。割れ目 が密集し脆弱である。	-
443	123.00	123.26	(岩級区分欄)CL	123.00	123.26	(岩級区分欄)CM	123.00	123.26	(岩級区分欄)CMに含める	-
444	-	-	-	123.15	123.15	傾斜45°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟 む。周辺は幅3mm程度で緑色化している。	123.15	123.15	123.15m:傾斜45°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅 3mm程度で緑色化する。	-
445	123.15	124.30	(割れ目状懸欄)cランク	123.15	124.30	(割れ目状懸欄)bランク	123.15	124.30	(割れ目状懸欄)bランク	-
446	123.85	123.85	60°の割れ目に厚さ3mmの褐色に汚染された砂が 挟まる。	-	-	-	123.85	123.85	123.85m:60°で幅3mmの褐色に汚染された砂を挟む。	-
447	124.09	-	柱状コアが主体となり、岩質も硬い。~124.30mまで は割れ目に挟み物が見られる。	124.09	125.20	柱状コアが主体となり、岩質も硬い。~124.30mまで は割れ目に挟み物が見られる。	124.09	125.20	124.09~125.20m:柱状コアが主体となり、岩質も硬い。	-
448	124.09	124.61	(コアの形状欄)Ⅲランク	124.09	124.61	(コアの形状欄)Ⅱランク	124.09	124.61	(コアの形状欄)Ⅱランク	-
449	124.09	124.30	(岩級区分欄)CM	124.09	124.30	(岩級区分欄)CH	124.09	124.30	(岩級区分欄)CH	-
450	124.61	124.77	(コアの形状欄)Ⅲランク	124.61	124.77	(コアの形状欄)Ⅳランク	124.61	124.77	(コアの形状欄)Ⅳランク	-
451	125.20	125.37	(岩級区分欄)CM	125.20	125.37	(岩級区分欄)CH	125.20	125.37	(岩級区分欄)CHに含める	-
452	125.37	125.37	付近、局所的に微細な割れ目が集中する。	-	-	-	125.37	125.37	125.37m付近、局所的に微細な割れ目が密集する。	-
453	126.34	126.69	柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な 割れ目(へき開面)に沿って褐色汚染。汚染はコア全 体に及ぶ。	126.34	126.69	柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な 割れ目(へき開面)に沿って褐色汚染が見られる。汚 染はコア全体に及ぶ。	126.34	126.69	126.34~126.69m:柱状コアであるが、褐色汚染が見られる。汚染はコア全 体に及ぶ。	-
454	126.34	126.69	(岩級区分欄)CH	126.34	126.69	(岩級区分欄)CM	126.34	126.69	(岩級区分欄)CMに含める	-
455	127.00	127.83	不規則で微細な割れ目が卓越。	127.00	127.83	不規則で微細な割れ目が発達。	127.00	127.83	127.00~127.83m:不規則で微細な割れ目が発達する。	-
456	127.06	127.30	軟質でコア表面はざらつく。変質の影響で割れ目に 沿って緑色味を帯びる所がある。	-	-	-	127.06	127.30	127.06~127.30m:軟質でコア表面はざらつく。変質により割れ目に沿って 緑色を帯びる所がある。	-
457	-	-	-	127.19	127.22	傾斜62°で幅0~10mm程度で局所的に灰白色粘 土、一部赤褐色粘土を挟む。	127.19	127.22	127.19~127.22m:傾斜62°で幅0~10mm程度で局所的に灰白色粘土、一 部赤褐色粘土を挟む。	-
458	127.60	127.83	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CL	127.60	127.83	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	127.60	127.83	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	-
459	128.26	128.76	微細な割れ目が卓越。割れ目沿いに褐色汚染が見 られる。	128.26	128.76	微細な割れ目が多く、割れ目沿いに褐色汚染が見ら れる。	128.26	128.76	128.26~128.76m:微細な割れ目が多く、割れ目沿いに褐色汚染が見られ る。	-
460	128.76	128.90	(岩級区分欄)CM	128.76	128.90	(岩級区分欄)CL	128.76	128.90	(岩級区分欄)CLに含める	-
461	128.90	129.15	割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状 となる。	128.90	129.15	一部の傾斜30~45°の割れ目沿いに劣化が見ら れ、一部の割れ目は礫状となる。	128.90	129.15	128.90~129.15m:一部の傾斜30~45°の割れ目沿いに劣化が見られ、一 部の割れ目は礫状となる。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから止しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 選定した記事内容	
462	129.52	130.08	(割れ目状態欄)cランク	129.52	130.08	(割れ目状態欄)bランク	129.52	130.08	(割れ目状態欄)bランク	-
463	129.52	129.84	(コアの形状欄)Ⅲランク	129.52	129.84	(コアの形状欄)Ⅱランク	129.52	129.84	(コアの形状欄)Ⅱランク	-
464	-	-	-	129.98	130.50	傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。	129.98	130.50	129.98~130.50m:傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。	-
465	129.94	130.08	(岩級区分欄)CL	129.94	130.08	(岩級区分欄)CM	129.94	130.08	(岩級区分欄)CM	-
466	130.02	130.42	高角度の割れ目が見られ、その割れ目沿いに劣化。一部礫状となる。	130.02	130.42	80°の高角度の割れ目が見られ、その割れ目沿いに劣化。一部礫状となる。	130.02	130.42	130.02~130.42m:80°の高角度の割れ目が見られ、割れ目沿いに劣化し、一部礫状となる。	-
467	130.08	130.42	(岩級区分欄)CL	130.08	130.42	(岩級区分欄)CM	130.08	130.42	(岩級区分欄)CMに含める	-
468	130.84	130.84	付近、交叉する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。	130.84	130.84	付近、交叉する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。	130.84	130.84	130.84m付近、交叉する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。	-
469	131.54	131.64	コアの半分が劣化し礫状となる。	131.54	131.61	コアの半分が劣化し礫状となる。	131.54	131.61	131.54~131.61m:コアの半分が劣化し礫状となる。	-
470	131.54	131.64	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Ⅳランク (割れ目状態欄)cランク (岩級区分欄)CL	131.54	131.64	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)Ⅲランク (割れ目状態欄)bランク (岩級区分欄)CH	131.54	131.64	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)Ⅲランク (割れ目状態欄)bランク (岩級区分欄)CH	-
471	131.75	131.83	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	131.75	131.83	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	131.75	131.83	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	-
472	131.75	132.14	(岩級区分欄)CM	131.83	132.14	(岩級区分欄)CH	131.83	132.14	(岩級区分欄)CHに含める	-
473	132.14	132.87	堅硬な柱状コア。	132.14	132.67	堅硬な柱状コア。	132.14	132.67	132.14~132.67m:堅硬な柱状コアからなる。	-
474	-	-	-	132.31	132.31	傾斜25°、幅1~2mmの石英脈を挟む。	132.31	132.31	132.31m:傾斜25°で幅1~2mmの石英脈を挟む。	-
475	-	-	-	132.67	132.67	傾斜82°の割れ目が分布。	132.67	132.67	132.67m:傾斜82°の割れ目が分布する。	-
476	132.67	133.59	(岩級区分欄)CM	132.67	133.59	(岩級区分欄)CH	132.67	133.59	(岩級区分欄)CHに含める	-
477	132.87	132.87	60°の割れ目にマンガンが厚さ3mmで挟在する。	132.87	132.87	45°の割れ目にマンガンが厚さ3mmで挟在する。	132.87	132.87	132.87m:45°で幅3mmのマンガンを挟む。	-
478	132.99	133.59	(割れ目状態欄)cランク	132.99	133.59	(割れ目状態欄)bランク	132.99	133.59	(割れ目状態欄)bランク	-
479	133.12	133.90	(コアの形状欄)Ⅱランク	133.12	133.90	(コアの形状欄)Ⅲランク	133.12	133.90	(コアの形状欄)Ⅲランク	-
480	133.26	133.26	割れ目間が礫状となり、礫には褐色の細粒物が付着する。	133.24	133.29	傾斜40~50°の割れ目間が礫状となり、礫には褐色の細粒物が付着する。	133.24	133.29	133.24~133.29m:傾斜40~50°の割れ目間が礫状となり、礫には褐色の細粒物が付着する。	-
481	-	-	-	133.90	133.90	傾斜72°の割れ目に沿って褐色化が顕著。	133.90	133.90	133.90m:傾斜72°の割れ目沿いに褐色化が顕著に見られる。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
482	133.90	134.12 (コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	133.90	134.12	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	133.90	134.12	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-
483	134.02	134.50 強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。	-	-	-	134.02	134.50	134.02～134.50m:強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。	-
484	134.30	135.01 (コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	134.30	135.01	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	134.30	135.01	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-
485	134.50	134.74 コアはやや青味を及ぼす。風化の影響は少ないが、 珪化し、原岩以上に硬い。	134.50	134.74	コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ないが、 珪化し、原岩以上に硬い。	134.50	134.74	134.50～134.74m:コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ない。	-
486	134.78	134.78 付近、黄鉄鉱が分解過程の白鉄鉱が少量見られ、 その周辺には褐色汚染がせまい範囲に及ぶ。	134.78	134.78	付近、黄鉄鉱が分解過程の白鉄鉱が少量見られ、 その周辺には褐色汚染が狭い範囲に及ぶ。	134.78	134.78	134.78m付近、黄鉄鉱が見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に見られる。	-
487	135.28	135.60 この間の低角度割れ目は2～3条の割れ目が2～4m 程度の距離で平行に接している。岩質は硬い。	135.28	135.60	この間の傾斜25°前後の割れ目は2～3条の割れ目 が2～10cm程度の間隔で平行に分布している。岩質 は硬い。	135.28	135.60	135.28～135.60m:傾斜25°前後の2～3条の割れ目が2～10cm程度の間 隔で平行に分布する。岩質は硬い。	-
488	135.60	135.76 (コアの形状欄)IVランク	135.60	135.76	(コアの形状欄)IIIランク	135.60	135.76	(コアの形状欄)IIIランク	-
489	136.00	136.20 高角度の割れ目が見られ、低角度の割れ目と交叉 し、割れ目がやや卓越する。割れ目にはマンガンに 汚染された挟在物が見られるものがある。	136.00	136.22	傾斜90°の割れ目が複数見られ、低角度の割れ目 と交叉し、割れ目がやや卓越する。割れ目にはマン ガンに汚染された挟在物が見られるものがある。	136.00	136.22	136.00～136.22m:傾斜90°の割れ目が複数見られ、低角度の割れ目と交 差し、割れ目がやや卓越する。割れ目にはマンガンに汚染された挟在物 が見られるものがある。	-
490	136.00	136.30 (岩級区分欄)CL	136.00	136.30	(岩級区分欄)CM	136.00	136.30	(岩級区分欄)CMに含める	-
491	136.10	136.30 (コアの硬さ欄)Cランク	136.10	136.30	(コアの硬さ欄)Bランク	136.10	136.30	(コアの硬さ欄)Bランク	-
492	136.22	136.30 (コアの形状欄)Vランク	136.22	136.30	(コアの形状欄)IVランク	136.22	136.30	(コアの形状欄)IVランク	-
493	136.22	136.64 (割れ目状態欄)cランク	136.22	136.64	(割れ目状態欄)bランク	136.22	136.64	(割れ目状態欄)bランク	-
494	136.34	136.34 38°の割れ目に沿って幅緑色味を帯びた変質部(緑 泥石化作用)が見られ、その中に小さな輝沸石が散 在し光る。	136.04	136.04	38°の割れ目に沿って幅1cm程度緑色味を帯びた 変質部(緑泥石化作用)が見られ、その中に小さな 絹雲母が散在し光る。幅1mm以下の灰白色粘土を 挟む。	136.04	136.04	136.04m:38°の割れ目に沿って幅1cm程度が緑色を帯びた緑泥石化によ る変質部が見られ、その中に小さな絹雲母が散在する。幅1mm以下の灰 白色粘土を挟む。	-
495	-	-	136.10	136.10	傾斜60°で幅2mmのマンガンを挟む。周辺は幅1cm 程度で珪化し脱色している。	136.10	136.10	136.10m:傾斜60°で幅2mmのマンガンを挟む。周辺は幅1cm程度で珪化し 脱色する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名:H27-B-4

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
496	-	-	-	136.21	136.22	傾斜25°程度の2条に分岐した割れ目に幅1~3mmのマンガンを挟む。	136.21	136.22	136.21~136.22m:傾斜25°程度の2条に分岐した割れ目に幅1~3mmのマンガンを挟む。	-
497	136.50	136.64	(コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)CL	136.50	136.64	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	136.50	136.64	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	-
498	136.61	136.61	局所的(5~15mm幅)に割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる。	136.61	136.61	局所的(5~15mm幅)に傾斜30~40°の割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる。	136.61	136.61	136.61m:幅5~15mmで局所的に傾斜30~40°の割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる。	-
499	136.64	137.02	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	136.64	137.02	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	136.64	137.02	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-
500	137.02	138.59	堅硬な柱状コア	-	-	-	137.02	138.59	137.02~138.59m:堅硬な柱状コアからなる。	-
501	138.01	138.16	微細でほぼ平行した割れ目が非常に卓越。	138.01	138.16	微細でほぼ平行した50°程度の割れ目が非常に多い。幅2~3mmの灰黄色粘土を挟む。	138.01	138.16	138.01~138.16m:微細でほぼ平行した50°程度の割れ目が非常に多い。幅2~3mmの灰黄色粘土を挟む。	-
502	138.01	138.47	(岩級区分欄)CL	138.01	138.47	(岩級区分欄)CM	138.01	138.47	(岩級区分欄)CMに含める	-
503	138.29	138.29	巾10mmで平行した割れ目が非常卓越する。	138.28	138.29	幅10mmで平行した60°程度の割れ目が密集する。	138.28	138.29	138.28~138.29m:幅10mmで平行した60°程度の割れ目が密集する。	-
504	138.29	138.47	(割れ目状態欄)cランク (岩級区分欄)CL	138.29	138.47	(割れ目状態欄)bランク (岩級区分欄)CM	138.29	138.47	(割れ目状態欄)bランク (岩級区分欄)CM	-
505	139.00	139.47	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	139.00	139.47	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	139.00	139.47	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-
506	139.47	139.72	(岩級区分欄)CM	139.47	139.72	(岩級区分欄)CL	139.47	139.72	(岩級区分欄)CLに含める	-
507	-	-	-	139.50	139.90	傾斜70°程度の微細な割れ目が多い。	139.50	139.90	139.50~139.90m:傾斜70°程度の微細な割れ目が多い。	-
508	139.72	140.00	(コアの硬さ欄)Cランク	139.72	140.00	(コアの硬さ欄)Bランク	139.72	140.00	(コアの硬さ欄)Bランク	-
509	139.90	139.90	70°のシャープな剪断性の節理。巾10mmの砂状とマンガンの挟在物が見られる。上盤側には平行な割れ目が3条見られる。	139.90	139.90	70°のシャープなせん断性の節理。幅10mmの砂状とマンガンの挟在物が見られる。上盤側には平行な割れ目が3条見られる。挟在物内の鉱物粒子に定向配列は見られない。周辺岩盤には原岩組織が認められる。	139.90	139.90	139.90m:70°のシャープな割れ目に幅10mmの砂状とマンガンの挟在物が見られる。上盤側には平行な割れ目が3条見られる。挟在物内の鉱物粒子に定向配列は見られない。周辺岩盤には原岩組織が認められる。	-
510	140.00	140.00	検尺	140.00	140.00	検尺	-	-	-	-

H24-D1-5

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	記事	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか?	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか?	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
-	-	☑	0.00	7.41	盛土	0.00	7.41	0.00~7.41m: 盛土	
0.00	3.00		0.00	3.00	粗砂 ルーズな粗砂からなる埋戻し土。1m以浅でφ10~40mmのGp岩片、コンクリート片などを含む。	0.00	3.00	0.00~3.00m: 粗砂 ルーズな粗砂からなる。径10~40mmの花崗斑岩、黒色砂岩などの礫を含む。	
0.00	3.00		0.00	3.00	(地質名欄) 粗砂	0.00	3.00	(地質名欄) 盛土	
3.00	7.41		3.00	7.41	砂礫 砂礫からなる改良土で、粗砂の基質は比較的良好に締まっている。7.00~7.20mはルーズな均質な中砂。φ2~5mmの石英粒、長石粒とφ5~120mmのGp主体の礫で、少量のGr、砕石片を含む。礫は硬質主体で一部半クサリで、垂角礫~重円礫である。礫含有率は30~40%で、7.20~7.41mは20%と低下している。	3.00	7.41	3.00~7.41m: 砂礫 砂礫からなる。改良土で、粗砂の基質は比較的良好に締まっている。7.00~7.20mはルーズな均質な中砂。φ2~5mmの石英粒、長石粒とφ5~120mmのGp主体の礫で、少量のGr、黒色砂岩片を含む。礫は硬質主体で一部半クサリで、垂角礫~重円礫である。礫含有率は30~40%で、7.20~7.41mは20%と低下している。	
3.00	7.41		3.00	7.41	(地質名欄) 砂礫	3.00	7.41	(地質名欄) 盛土	
7.41	7.41		-	-	着岩	-	-	-	下に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はしない
-	-		7.41	54.00	φ1~10mm石英、長石の斑晶からなる花崗斑岩(Gp)	7.41	54.00	7.41~54.00m: 花崗斑岩 径1~10mmの石英、長石の斑晶を5~15%程度含む。19m以深は斑晶の量が少なくアプライト様を呈する部分もある。	
7.41	8.51		7.41	8.51	風化で著しく軟化するが、岩組織はほぼ残留。割れ目は一部は消滅~消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。長石斑晶は全て粘土化で白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土脈は殆ど分布しない。割れ目は30~50°主体で、割れ目周辺5~10mmは褐色化することが多い。	7.41	8.51	7.41~8.51m: 風化で著しく軟化するが、原岩組織はほぼ残留し、割れ目は一部は消滅~消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目周辺の幅5~10mmが褐色化することが多い。長石斑晶は粘土化して白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土脈は殆ど分布しない。上端には幅1cm程度のモルタルが付着する。	
7.45	7.45		7.45	7.45	40°割れ目はせん断性割れ目。交差する53°、幅2mmの石英脈を切っている(変位量5mm右ズレ)	7.45	7.45	7.45m: 傾斜40°の割れ目は、交差する傾斜53°で幅2mmの石英脈を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
-	-		7.89	7.89	傾斜50°の割れ目に幅1~3mm程度のマンガンを含み、割れ目周辺は幅3~5mm程度で緑色化している。	7.89	7.89	7.89m: 傾斜50°の割れ目に幅1~3mm程度のマンガンを含み、割れ目周辺は幅3~5mm程度で緑色化する。	
-	-		8.03	8.08	マンガン汚染が顕著で、径2~10mmの岩片を15~20%程度含む。	8.03	8.08	8.03~8.08m: マンガン汚染が顕著で、径2~10mmの岩片を15~20%程度含む。	
8.48	8.48		8.48	8.48	45°で幅5~10mmが緑灰色化(緑泥石化)。粘土化は伴わない。	8.48	8.48	8.48m: 傾斜45°で幅5~10mmが緑灰色化により緑灰色化する。粘土化は伴わない。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)						
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容							
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>										
13	8.51	8.71	破砕帯	8.51	8.71	破砕部			●8.51～8.71m: 破砕部 8.51～8.66m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端55°でほぼ直線的にシヤープに、下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の原岩組織が消滅した軟質化～粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1～2mmの軟質な淡黄色粘土脈からなる。8.51～8.54mは粘土分が多い。淡黄～にぶい橙色を呈する。 8.66～8.69m: 粘土質礫状部(Hb) 上端50°でやや不明瞭に、下端60°でやや波打って連続。径2～3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄橙色を呈する。幅25～30mm。 8.69～8.70m: 粘土状部(Hc-1) 上端60°でやや波打ち、下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3～8mm。 8.70～8.71m: 粘土質礫状部(Hb) 上端60°で直線的に、下端65°でほぼ直線的にシヤープに連続。径1～2mmの石英粒と径3～5mmの粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄橙色を呈する。幅3～10mm。						・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
14	8.51	8.66	Hj 上端55°、下端50°で、上端はほぼ直線的でシヤープに、下端はやや不明瞭に波打ちながら連続。φ5mm前後の組織が消滅した軟化～粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1～2mmの軟弱な淡黄色(2.5Y8/3)粘土脈からなり粘土混り岩片状を呈する。8.51～8.54mは粘土量が増えている。色調は、淡黄～にぶい橙(7.5Y6/4)で、厚さは140mm(コア長)	8.51	8.66	Hj 上端55°、下端50°で、上端はほぼ直線的でシヤープに、下端はやや不明瞭に波打ちながら連続。φ5mm前後の原岩組織が消滅した軟質化～粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1～2mmの軟弱な淡黄色(2.5Y8/3)粘土脈からなり粘土混り岩片状を呈する。8.51～8.54mは粘土量が増えている。やや軟質。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。色調は、淡黄～にぶい橙色(7.5Y6/4)で、厚さは140mm(コア長)									
15	8.66	8.69	Hb 上端50°、下端60°で、上端はやや不明瞭に、下端はやや波打って連続。φ2～3mm石英粒とφ5mm前後の粘土化したGp岩片からなる軟弱なにぶい黄橙(10YR7/3)色の礫質粘土で、厚さは25～30mm。	8.66	8.69	Hb 上端50°、下端60°で、上端はやや不明瞭に、下端はやや波打って連続。φ2～3mm石英粒とφ5mm前後の粘土化したGp岩片からなる軟弱なにぶい黄橙(10YR7/3)色の粘土質礫状部で、厚さは25～30mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	8.51	8.71							
16	8.69	8.70	Hc-1(主せん断面・8.70m) 上端60°、下端60°で、両者ともやや波打って連続する。φ1mm以下の微小な石英を少量含む。軟弱な明赤灰(2.5YR7/2)粘土。厚さ3～8mm。	8.69	8.70	Hc-1(最新活動面・8.70m)(最も直線的な面) 上端60°、下端60°で、上端はやや波打ち、下端は直線的に連続。φ1mm以下の微小な石英を少量含む。軟弱な明赤灰色(2.5YR7/2)粘土。厚さ3～8mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。									
17	8.70	8.71	Hb 上端60°、下端65°で、上端はやや波打って、下端はほぼ直線的にシヤープに連続する。φ1～2mmの石英粒と、φ3～5mmの粘土化したGp岩片からなる軟弱なにぶい黄橙色(10YR7/2)を呈する礫質粘土。厚さは3～10mm。	8.70	8.71	Hb 上端60°、下端65°で、上端は直線的に、下端はほぼ直線的でシヤープに連続する。φ1～2mmの石英粒と、φ3～5mmの粘土化したGp岩片からなる軟弱なにぶい黄橙色(10YR7/2)を呈する粘土質礫状部。厚さは3～10mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。									
18	8.71	10.19	著しく軟化し、岩組織は一部で残留するが、割れ目は大半が消滅している。8.50～8.90mでは30～40°とこれに斜交～直交する50～70°割れ目の一部が残留している。	8.71	10.19	著しく軟質化し、原岩組織は一部で残留するが、割れ目は大半が消滅している。9.50～10.19mでは30～40°とこれに斜交～直交する50～70°割れ目の一部が残留している。	8.71	10.19	8.71～10.19m: 著しく軟質化し、原岩組織は一部で残留するが、割れ目は大半が消滅する。9.50～10.19mでは傾斜30～40°とこれに斜交～直交する傾斜50～70°の割れ目の一部が残留する。						

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名:H24-D1-5

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
19	10.19	10.21	破砕帯(H-3d破砕帯)	10.19	10.21	破砕帯(H-3d破砕帯)			●10.19~10.21m:破砕部 10.19~10.20m:粘土質礫状部(Hb) 上端27°で直線的にシャープに、下端36°でやや波打って連続。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰白色を呈する。幅6~10mm。 10.20~10.21m:粘土状部(Hc-1) 上端36°でやや波打って、下端40°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質。灰白~上部側でにぶい黄色を呈する。幅4~6mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
20	10.19	10.20	Hb 上端27°、下端36°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや波打って連続。φ1~3mm石英粒とφ5mm前後の粘土化したGp岩片を含む礫質粘土で、粘土は灰白色を呈し軟弱である。厚さは6~10mm。	10.19	10.20	Hb 上端27°、下端36°で、上端は直線的でシャープに、下端はやや波打って連続。φ1~3mm石英粒とφ5mm前後の粘土化したGp岩片を含む粘土質礫状部で、粘土は灰白色を呈し軟質である。厚さは6~10mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	10.19	10.21		
21	10.20	10.21	Hc-1(主せん断面・10.21m) 上端36°、下端40°で、上端は波打って、下端は直線的でシャープに連続する。下端が主せん断面である。φ1mm前後の石英粒を若干含む灰白(2.5Y8/2)~上部側のにぶい黄色(2.5Y6/3)の軟弱な粘土である。厚さは4~6mm。	10.20	10.21	Hc-1(最新活動面・10.21m) 上端36°、下端40°で、上端はやや波打って、下端は直線的でシャープに連続する。下端が主せん断面である。φ1mm前後の石英粒を若干含む灰白(2.5Y8/2)~上部側のにぶい黄色(2.5Y6/3)の軟弱な粘土である。厚さは4~6mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
22	10.21	10.45	著しく軟化する硬さEが主体で、消滅した割れ目が多いが、60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残留し、幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟むことが多い。10.37m・65°割れ目深では色調が上位のにぶい橙から橙に変化し、岩片も硬さDが多くなり、粘土脈は分布しなくなる。10.37m・65°割れ目には幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟み、上盤側約5mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	10.21	10.45	著しく軟化する硬さEが主体で、消滅した割れ目が多いが、60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残留し、幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟むことが多い。10.37m・65°割れ目深では色調が上位のにぶい橙から橙に変化し、岩片も硬さDが多くなり、粘土脈は分布しなくなる。10.37m・65°割れ目には幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟み、上端側幅約5mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	10.21	10.45	10.21~10.45m:消滅した割れ目が多いが、傾斜60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残留し、幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟むことが多い。 10.37m:傾斜65°の割れ目を境に色調がにぶい橙から橙に変わり、岩片も硬さ「D」が多くなり、粘土脈は分布しなくなる。割れ目には幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟み、上端側幅約5mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
23	10.45	10.50	破砕帯(H-4 破砕帯)	10.45	10.50	破砕帯(H-4 破砕帯)			●10.45~10.50m:破砕部 10.45m:粘土状部(Hc-1) 傾斜30°で直線的にシャープに連続する幅1mm以下の軟弱な白色粘土。 10.45~10.50m:粘土質礫状部(Hb) 上端30°で直線的にシャープに、下端40°で一部で大きく波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒と、φ5~10mm~長さ10~20mm、幅5~10mmの扁平化したGp礫を多く含む軟弱な粘土質礫状部で灰白色(7.5YR8/2)~にぶい橙(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
24	10.45	10.45	Hc-1(主せん断面) 30°で直線的にシャープに連続する厚さ1mm以下の軟弱な白色粘土で主せん断面である。	10.45	10.45	Hc-1(最新活動面) 30°で直線的でシャープに連続する厚さ1mm以下の軟弱な白色粘土。主せん断面がある。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
25	10.45	10.50	Hb 上端30°、下端40°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部で大きく波打ちながら連続する。φ1~2mm石英粒と、φ5~10mm~長さ10~20mm、幅5~10mmの扁平化したGp礫を多く含む軟弱な礫質粘土で灰白色(7.5YR8/2)~にぶい橙(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。	10.45	10.50	Hb 上端30°、下端40°で、上端は直線的でシャープに、下端は一部で大きく波打ちながら連続する。φ1~2mm石英粒と、φ5~10mm~長さ10~20mm、幅5~10mmの扁平化したGp礫を多く含む軟弱な粘土質礫状部で灰白色(7.5YR8/2)~にぶい橙(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	10.45	10.50		
26	10.50	10.90	(コアの形状欄) Vランク	10.50	10.90	(コアの形状欄) Vランク	10.50	10.90	(コアの形状欄) Vランク	-
27	10.50	11.02	(コアの硬さ欄) Eランク	10.50	11.02	(コアの硬さ欄) Dランク	10.50	11.02	(コアの硬さ欄) Dランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから止しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
28	10.51	12.00	10.50	12.00	10.50	12.00	10.50	12.00	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
29	10.98	11.20	10.98	11.20	10.98	11.20	10.98	11.20	-
30	11.02	11.20	11.02	11.20	11.02	11.20	11.02	11.20	-
31	11.63	12.00	11.63	12.00	11.63	12.00	11.63	12.00	-
32	11.90	11.95	11.10	11.95	11.10	11.95	11.10	11.95	-
33	12.00	12.61	12.00	12.61	12.00	12.61	12.00	12.61	-
34	12.18	12.61	12.18	12.61	12.18	12.61	12.18	12.61	-
35	12.61	14.19	12.61	14.19	12.61	14.19	12.61	14.19	-
36	14.19	16.18	-	-	-	-	14.19	16.18	記事欄以外から読み取れる硬さ、割れ目の多寡、色調の情報は記載しない
37	14.19	14.72	14.19	14.72	14.19	14.72	14.19	14.72	-
38	15.00	15.30	15.00	15.30	15.00	15.30	15.00	15.30	-
39	15.53	15.92	15.53	15.92	15.53	15.92	15.53	15.92	-
40	15.70	15.92	15.70	15.92	15.70	15.92	15.70	15.92	-
41	16.18	16.72	16.18	16.72	16.18	16.72	16.18	16.72	-
42	16.18	16.72	16.18	16.72	16.18	16.72	16.18	16.72	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
43	16.18	17.14	(岩級区分欄)CL	16.18	17.14	(岩級区分欄)CM	16.18	17.14	(岩級区分欄)CM	-
44	16.72	17.14	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。40~50°割れ目が平行に分布し、割れ目ぞいの砂状化はなく、粘土脈も挟まれない。 17.07m・50°幅1~2mmでやや湾曲しながら石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかにφ0.1mmと微細な金属鉱物が晶出している。	16.72	17.14	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。40~50°割れ目が平行に分布し、割れ目ぞいの砂状化はなく、粘土脈も挟まれない。 17.07m・50°幅1~2mmでやや湾曲しながら石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかにφ0.1mmと微細な金属鉱物が晶出している。	16.72	17.14	16.72~17.14m:傾斜40~50°の割れ目が平行に分布し、割れ目ぞいの砂状化はなく、粘土脈も挟まれない。17.07mに傾斜50°で幅1~2mmのやや湾曲した石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかに径0.1mmの微細な金属鉱物が晶出する。	・記事欄以外から読み取れる硬さや割れ目の多寡の情報は記載しない
45	17.14	18.17	上位よりも若干風化が進み、割れ目の一部で砂状化~φ3mm前後で細片化する。粘土脈の挟在は少ない。割れ目は30~50°が主体で一部でこれらに斜交~直交する50~70°割れ目も分布する。 18.05~18.09m、割れ目の褐色化進む。	-	-	-	17.14	18.17	17.14~18.17m:上位よりも若干風化が進み、割れ目の一部で砂状化~径3mm前後で細片化する。粘土脈の挟在は少ない。傾斜30~50°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目も分布する。18.05~18.09m間は割れ目の褐色化が進む。	-
46	18.17	18.64	風化で軟質化している。割れ目は一部で消滅するが、40~50°割れ目~低密着割れ目の一部が残留している。割れ目の一部は砂状化~φ5mm前後に細片化する。粘土脈は18.28m・35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mm軟質な白色粘土が分布するのみで、他割れ目には分布しない。	18.17	18.64	風化で軟質化している。割れ目は一部で消滅するが、40~50°割れ目~低密着割れ目の一部が残留している。割れ目の一部は砂状化~φ5mm前後に細片化する。粘土脈は18.28m・35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mm軟質な白色粘土が分布するのみで、他割れ目には分布しない。	18.17	18.64	18.17~18.64m:風化で軟質化する。割れ目は一部で消滅するが、傾斜40~50°の割れ目や低密着割れ目の一部が残留する。割れ目の一部は砂状化~径5mm前後に細片化する。粘土脈は18.28mの傾斜35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mmで軟質な白色粘土が分布するのみで、他の割れ目には分布しない。	-
47	18.64	18.78	18.72m・35°幅3~4mmの軟弱な灰赤色(2.5YR6/2)粘土脈が直線的でシャープに連続。その上下盤側には幅0.5mm以下の軟弱な白色粘土脈が平行に分布し、全体が著しく軟化している。	18.64	18.78	18.72m・35°幅3~4mmの軟弱な灰赤色(2.5YR6/2)粘土脈が直線的でシャープに連続。その上下端側には幅0.5mm以下の軟弱な白色粘土脈が平行に分布し、全体が著しく軟化している。	18.64	18.78	18.64~18.78m:18.72mに傾斜35°で幅3~4mmの軟弱な灰赤色粘土脈が直線的でシャープに連続する。その上下端側には幅0.5mm以下の軟弱な白色粘土脈が平行に分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
48	18.78	19.11	風化で軟質化している。風化で、割れ目の一部は消滅するが、40~60°割れ目と低密着割れ目が残留する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土化部は分布せず、粘土脈も挟まれない。	18.78	19.11	風化で軟質化している。風化で、割れ目の一部は消滅するが、40~60°割れ目と低密着割れ目が残留する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土化部は分布せず、粘土脈も挟まれない。	18.78	19.11	18.78~19.11m:風化で軟質化し、割れ目の一部は消滅するが、傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が残留する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土化部は分布せず、粘土脈も挟まれない。18.90~19.03m間は周辺よりやや硬質である。	-
49	18.90	19.03	硬さCの岩片が分布する。	-	-	-	-	-	-	・上記の記事に含めたため記載しない
50	19.11	20.10	40~60°割れ目が主体で、一部で、これらに10~30°で斜交~直交する。19.67mに浅は硬さC。19.67mに深は硬さBと堅硬となる。硬さBも含め、割れ目の一部は薄く砂状化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。	-	-	-	19.11	20.10	19.11~20.10m:傾斜40~60°の割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する10~30°の割れ目が見られる。割れ目の一部は薄く砂状化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
51	19.56	19.67	最大径φ25mm石英、φ20mm長石などからなるペグマタイト質部で、幅約100mm、65°で分布。	19.56	19.67	最大径φ25mm石英、φ20mmカリ長石などからなるペグマタイト質部で、幅約100mm、65°で分布。	19.56	19.67	19.56~19.67m:ペグマタイト傾斜65°で幅約100mm。最大径25mmの石英、径20mmのカリ長石などからなる。	-
52	19.66	19.66	58°はせん断性割れ目で、交差する10°割れ目を切り(変位量2mm左ズレ)、ペグマタイトの石英斑晶を切断している。	19.66	19.66	58°のせん断性割れ目は連続せず、交差する10°割れ目を横断している。を切り(変位量2mm左ズレ)、ペグマタイトの石英斑晶を切断している。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	19.66	19.66	19.66m:傾斜58°の割れ目は連続せず、交差する傾斜10°の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
53	19.97	19.97	80°、幅0.5~1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-	-	19.97	19.97	19.97m:傾斜80°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-
54	20.10	20.46	40~60°の割れ目と低密着割れ目が概ね1~3cm間隔で平行に分布する。一部で薄く砂状化するが、粘土脈の挟在は殆んどない。	-	-	-	20.10	20.46	20.10~20.46m:傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が概ね1~3cm間隔で平行に分布する。一部で薄く砂状化するが、粘土脈の挟在は殆んどない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
55	20.11	20.11	-	-	-	20.11	20.11	20.11m: 傾斜60°の割れ目はマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	-	
56	20.46	20.85	20.46	20.85	一部に硬さBの堅硬部も含むが、硬さCが主体。50~60°割れ目主体で、割れ目沿いの砂状化は殆んどないが、幅1~2mmの軟弱な白色~浅黄色(2.5γ/3)粘土脈をはさまることが多い。	20.46	20.85	20.46~20.85m: 一部に硬質部も含むが、全体にやや硬質である。傾斜50~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いの砂状化は殆んどないが、幅1~2mmの軟弱な白~浅黄色の粘土脈を挟むことが多い。	-	
57	20.65	20.80	-	-	-	20.65	20.80	20.65m~20.80m: 割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-	
58	20.85	21.43	20.85	21.43	硬さBで堅硬。20~30°とこれに斜交する50~60°割れ目が主体で、一部で同角の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが劣化なし。割れ目挟在物はない。	20.85	21.43	20.85~21.43m: 傾斜20~30°とこれに斜交する50~60°の割れ目が主体で、一部で同傾斜の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが、劣化はない。割れ目の挟在物も見られない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
59	21.06	21.15	-	-	-	21.06	21.15	21.06m・30°と21.15m・50°の各割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化。	-	
60	21.33	21.33	21.33	21.33	60°のせん断性割れ目は、交差する20°割れ目及び21.36mの褐色化した割れ目を横断している。を切っている(変位量8mm右ズレ)。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	21.33	21.33	21.33m: 傾斜60°の割れ目は、交差する傾斜20°の割れ目及び21.36mの褐色化した割れ目を横断する。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	
61	21.43	21.50	21.43	21.50	20~30°と50~60°割れ目が5~10mm間隔で交差し全体が軟化する。幅0.5mmの白色軟弱粘土がわずかに付着する。	21.43	21.50	21.43~21.50m: 傾斜20~30°と50~60°の割れ目が5~10mm間隔で交差し全体が軟化する。幅0.5mmの軟弱な白色粘土がわずかに付着する。	-	
62	21.43	21.50	21.43	21.50	(割れ目状態欄)αランク (コアの形状欄)Ⅴランク (コアの硬さ欄)Ⅱランク (風化欄)δランク	21.43	21.50	(割れ目状態欄)βランク (コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Ⅲランク (風化欄)γランク	-	
63	21.50	21.81	-	-	-	21.50	21.81	21.50~21.81m: わずかに低密着割れ目が分布する。	-	
64	21.50	21.81	21.50	21.81	(コアの形状欄)Ⅲランク	21.50	21.81	(コアの形状欄)Ⅱランク	-	
65	21.81	22.43	21.81	22.43	10~40°とこれに斜交する40~60°割れ目が主体。22.10m・70°ではごく薄く砂状化。22.36m・50°には幅1~2mmの軟弱な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。	21.81	22.43	21.81~22.43m: 傾斜10~40°とこれに斜交する40~60°の割れ目が主体で、22.10mの傾斜70°の割れ目は薄く砂状化し、22.36mの傾斜50°の割れ目には幅1~2mmの軟弱な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。	-	
66	-	-	22.28	22.28	傾斜80°で、幅2~3mmでカリ長石の濃集部が脈状に分布。	22.28	22.28	22.28m: 傾斜80°で幅2~3mmのカリ長石の濃集部の脈が分布する。	-	
67	22.43	22.91	-	-	45°前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20°割れ目と低密着割れ目が分布する。	22.43	22.91	22.43~22.91m: 傾斜45°前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20°の割れ目と低密着割れ目が分布する。	-	
68	22.43	22.91	22.43	22.91	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	22.43	22.91	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	-	